

# 令和6年度 全国学力・学習状況調査 ～我孫子市の子どもたちの結果より～

## 教科に関する調査結果より

### 小学校

国語、算数、いずれも全国・県平均正答率と「ほぼ同程度」 ※いずれも上回っている

### 中学校

国語、数学、いずれも全国・県平均正答率と「ほぼ同程度」 ※いずれも上回っている

\* 「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

## 学力

- 小学校国語では、どの内容も比較的よくできており、特に「物語文を読む問題」の正答率が高かった。一方、漢字の書き取り「きょうぎの作戦を考える」の誤答が目立った。文や文章の中で漢字が正しく使えるよう、熟語を意識した漢字学習が大切である。
- 小学校算数では、「問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる問題」に課題が見られた。「〇〇より少ない」という言葉からひき算を思い浮かべてしまう誤答が目立った。問題場面を図に表し、数量の関係を捉えることができるようにする指導を大切にしたい。また、「どちらが速いか」を比べる問題にも課題が見られた。場面に応じて速さの比べ方を考察できるようにする指導を充実したい。
- 中学校国語では、「短歌の表現の技法の理解」に課題が見られた。表現が工夫されている文章や詩歌を取り上げ、用いられている技法に着目し、その効果について考えたり自分の表現に生かしたりして知識と活用場面が結び付くよう指導したい。
- 中学校数学は、どの領域もよくできている。昨年に引き続き「データの活用」や「図形」の問題では、全国平均よりも大きく上回る結果となった。ただ、「説明する」「証明する」問題については、全国と同様に課題が見られ、約 1/4 が無解答である。問題解決の構想を立て、表や式、グラフを活用して説明できるように指導したり、証明の方針を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導したりすることが大切である。

## 児童生徒に対する質問紙調査結果より

- 小中一貫教育の目指す「コミュニケーション力」「チャレンジ力」「豊かな心」について  
小学生、中学生ともに全国平均と同程度である。昨年度と比べると、「コミュニケーション力」と「チャレンジ力」は増加している。各学校の「個別最適な学び」と「協働的な学び」を意識した授業実践が結果となって表れていると思われる。引き続き問題解決型学習や体験学習をより一層充実させ、友達と一緒に共通の問題や課題を設定し、その解決に向けて粘り強く取り組む姿勢を育てていきたい。
- 生活習慣  
基本的な生活習慣が身についている小中学生の割合は、全国平均と同程度である。小学生のテレビゲーム（スマートフォンを含む）の1日あたりの時間は、全国平均よりも長い。
- 学習習慣  
学校外での小中学生の勉強時間は、全国平均よりやや長い。
- 自己有用感  
「自分にはいいところがある」「将来の夢や目標を持っている」と回答した小中学生の割合は全国平均を下回る。「先生は、よいところを認めてくれている」「困りごとや不安があるとき、先生に相談できる」と回答した児童生徒も全国平均を下回る。教職員からの肯定的な声掛けを増やし、友達に認められる場面を増やしていく必要がある。
- 学習に対する興味・関心や授業の理解度  
小学生中学生共に、学習に対する興味や理解度は、国語と理科は全国平均と同程度であるが、算数・数学は下回っている。また、ICTの授業での活用が全国平均を大きく下回っている。ICTを効果的に活用しながら、どの教科も「わかる」「楽しい」と思えるような授業改善を目指していきたい。

## 自尊意識・生活習慣等